

# 琉球新報

THE RYUKYU SHIMPO

第38729号

発行所 琉球新報社 ©琉球新報社2016年  
〒900-8525 那覇市天久905 電話:098-865-5111



住宅地の目の前に並ぶ海軍の哨戒機=12日、米軍嘉手納基地



推定される黒色粒子の発生源

# 騒音時に「黒色粒子」増

## 嘉手納基地 町、風向と同時計測

【嘉手納】嘉手納町で問題となっている悪臭問題を巡り、風向、風速と騒音を同時に計測した町の初めての調査で、排ガスの中に含まれ、発がん性を含む可能性がある「黒色粒子」が米軍嘉手納基地の方向から流れていることが12日までに分かった。騒音発生時に黒色粒子の量が増えたことも確認された。また、航空機の燃料などに含まれる揮発性有機化合物の濃度が、同町屋長の観測地点で計測した臭気レベルの測定結果に連動していることも判明した。風向などから同基地の米軍機からの排ガスが悪臭の原因となっている可能性が高いことが裏付けられた。

## 悪臭、米軍機の可能性

北海道大学の松井利仁教授のグループが嘉手納町屋良のニライ消防本部屋上で測定した。観測地点は嘉手納基地内の海軍の哨戒機駐

機場の北西に位置する。黒色粒子の量や粒子の個数、揮発性有機化合物の濃度、臭気レベルを測定し、騒音レベルと風向、風速と併せて分析した。

町基地涉外課は11日、自治会長などを対象に嘉手納基地由来の大气汚染物質調査の中間報告会を開催し、松井教授が分析結果について説明した。

黒色粒子は細かなすすなどの微粒子で、発がん性物質を有している可能性があるが、今回の調査では成分まで分析していない。

調査では、P3C哨戒機、P8哨戒機などが駐機する嘉手納基地の海軍駐機場などから、ニライ消防本部に流れる風向き(北東から東南東)で高濃度が測定された。

嘉手納町では、長年にわたり町民から悪臭についての苦情が多く寄せられているが、原因は特定されていなかった。町は本年度から独自で松井教授らに調査を委託していた。

揮発性有機化合物の調査は2016年9月から、黒色粒子量の調査は15年9月に開始された。来年3月に本年度の調査報告書が提出される。松井教授は「嘉手

(31面に関連)